

FLC学びのエリア

<志村四中・志村坂下小・北前野小・緑小・志村小>



令和7年12月1日

板橋区立志村小学校

校長 佐久間 康弘

12月号

志村小ホームページ

学校スローガン「みんなが笑顔」

<http://www.ita.ed.jp/edu/simuraes/>

全国学力・学習状況調査より

校長 佐久間康弘

6年生で実施された全国学力調査の結果についてお知らせします。

東京都の学校と正答率を比較すると、国語の調査ではプラス3ポイント、全国の学校と比較するとプラス10ポイントでした。また、算数の調査では、東京都の学校と正答率を比較するとプラス4ポイント、全国の学校と比較するとプラス6.2ポイントでした。

国語では、「話す・聞く」領域、算数の「図形」領域で大きな強みが見られました。一方で、国語・算数ともに一部の「記述式」や「情報を活用する問題」が課題でした。

本校の国語科調査の結果は、聞き手の発言の「目的」や「意図」を捉える問題、観点に沿って情報を説明する問題、図や資料を根拠に理解する問題など、コミュニケーションの場面を読み取る力・根拠を押さえる力がよくできていました。これに対して、記述式で内容を「詳しく書く」、複数資料を組み合わせて記述するなど、情報整理・要素抽出・書く構成力が課題であると分かりました。

本校で重視している主体性を育てながら深い学び(志村小アドバンス学習)にしていく授業実践からの成果として、「会話の流れや意図の把握が確実にしていること」、つまり、授業での話し合い活動が活発、発言の根拠を問う場面が多いことから調査結果のプラスにつながりました。

国語の課題に向けての今後の取組は、「目的を説明する」、「話し合いのふり返し活動を充実させる」、「相手の考え方の違いを説明する活動」を強化していければと考えています。

算数調査の結果でプラスの要因になったのは、「図形の理解・操作」、「計算の意味理解」、「表やグラフから基本事項を読み取る力」で成果が出ていました。一方で課題は、「数量の関係(比例的変化・比)」、「問題場面から必要な情報を選択する力」、「データを根拠にして説明する記述問題」、「読解力が計算に絡む場面での弱さ」が挙げられます。改善策として「数量の関心に特化した系統的指導」、「量の関係を図式化(線分図・表)」、「比例の意味を具体場面からモデル化」、「整理の仕方を黒板で可視化」、「文章題の読解強化(国語的算数思考)」、「必要な情報・不要な情報を明確にする活動」、「問題文を図や表に変換する練習」、「データの活用(理由を書く)の練習」、「結論→理由(データ)→説明の型」、「グラフ比較の演習、根拠を言語化する短文記述を継続」など、多岐にわたる場面で言語活動の充実を図ります。

授業参観の折にはお気づきのことなどWebアンケートにてご意見をお寄せください。授業改善に努めてまいります。(パスワードは学校日より同じです)

※全国学力調査の詳しい分析結果は、右記の2次元コードからアクセスしご覧ください。12月の今日から師走、令和7年の締めくくりとともに、2学期のまとめの月となります。



この2学期、日頃の学校生活や行事を通して、子供たちは学習面でも生活面でも大きく成長することができました。今後も日ごとに成長していく姿が楽しみです。少々早い挨拶となりますが、2学期中に様々な場面でお力添えをいただいた保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。皆様どうぞよいお年をお迎えください。